

## 自動沈下補正まくらぎによる構造境界部の軌道変位抑制効果

村本勝己 中村貴久

連接軌道等の直結系軌道とバラスト軌道との境界部においては、軌道変位が局所的に不連続となって浮まくらぎが発生しやすいことはよく知られている。筆者らは、軌道構造境界部の局所的な軌道変位対策として、道床が沈下しても軌道変位を抑制できる自動沈下補正まくらぎを用いた軌道構造(図)を提案し、開発を行っている。

本報告において、筆者らは、1/5スケールの軌道模型を用いた移動荷重載荷試験を行い、自動沈下補正まくらぎの施工本数と軌道変位抑制効果との関係を把握した。また、自動沈下補正まくらぎを用いた軌道構造の軌道変位抑制メカニズムを明らかにした。

(鉄道総研報告, 2009年10月号)

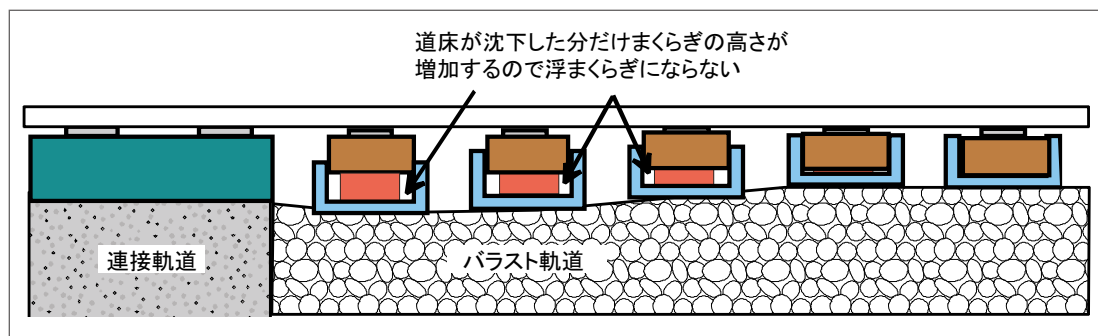


図 自動沈下補正まくらぎによる浮まくらぎ防止の原理